

異なるボリュームデータへバッチ処理を引継ぐ

同一Studyに含まれるボリュームデータであれば、バッチ処理によりMPR作成した範囲やスライス厚を異なるボリュームデータへ引継ぐことができます。

例えば、頭部ヘリカル撮影後に実質条件と骨条件を同じ角度・同じ範囲でAxial作成したい場合など便利です。

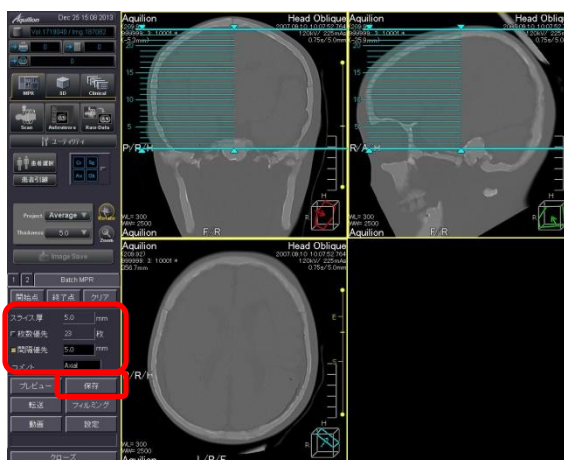
- ①MPR画面にて角度の調整後[Batch MPR]から任意のスライス厚やスライス間隔、画像作成範囲を決定し[保存]します。
- ②[Batch MPR]機能をクローズせずに、F4キーを押してください。Image Selectorが表示されます。
- ③Image Selectorから、同一条件でMPR作成したい異なるボリュームデータをクリックします。
- ④調整した角度や指定したスライス厚、スライス間隔、画像作成範囲が引継がれていることを確認しもう一度[保存]をクリックします。

③



F4キーで表示させたI-Selから異なるボリュームデータをクリック

④



角度や作成範囲などの条件が引継がれているので、そのまま[保存]をクリック

※上記はAlexionV4.75での画面で、装置・バージョンにより操作が異なる場合がございます。
ご使用の装置での操作に関しては東芝CTアプリケーション担当までお問い合わせください。